

来年の議案にそのまま使える背景・目的

背景 「知識中心の学び」を“問いを育てる学び”へ転換する

現在、小中学生の不登校は約36万人にのぼり増加しています。しかし、不登校は子ども個人の問題として捉えられることが多く、教育の在り方について考える機会が少ない現状があります。そのため、子どもに関わる大人が、学校だけにとられない多様な学びを理解していく必要があります。

目的 地域を動かす次世代教育アクション

不登校をきっかけに教育の在り方を見直すことで、保護者や地域住民、青年会議所メンバーなど子どもに関わる大人が、多様な学びの必要性を理解し、子どもの問いや挑戦を尊重できる人財を増やすことを目的とします。

運動手法

①不登校を入口に教育課題を自分事化する(自分事化)

地域の不登校の現状をもとに、学校や支援団体へのヒアリング、保護者との対話会等を通じて、子どもに関わる大人が教育について考える機会を創出します。

②教育観を問いの学びへ転換する(教育観転換)

講義やワークショップを通じて、「答えを教える」のではなく「どう思う?」と問いかけ、関わり方を学び、自地域で実践できる学びの形を考える機会を創出します。

③実践モデルを基に地域で行動を起こす(実践)

学校やフリースクール等と連携し、地域の大人が子どもの探究活動や対話に伴走する事業を実施することで、地域で継続できる運動へとつなげます。

どんなLOMに向いてる?

教育に課題意識はあるが、具体的な関わり方が見えていない

- ・不登校の増加や子どもの居場所づくりに課題を感じているLOM
- ・地域課題と青少年育成をどう結びつけるか悩んでいるLOM
- ・地域の大人が子どもの学びに関わる機会を増やしたいLOM
- ・行政、学校、フリースクール等との連携を模索しているLOM

この運動をするとあなたの地域はどう変わる?

学びの価値が共有され、伴走者として関われる地域になる

- ・地域の大人が子どもの学びに関わる機会が増える
- ・学校だけに頼らない教育環境が生まれる
- ・子どもが安心して挑戦や発言できる地域になる

Point 運動構築におけるアドバイス

- ・不登校を「解決すべき問題」ではなく、「教育を見直すきっかけ」として捉えてみよう。
- ・子どもとの関わり方は、正解を提示するのではなく、「問いを持ち帰らせる設計」を意識しよう。
- ・成果は参加人数だけでなく、「意識の変化」も測るようにしよう。
- ・学校だけでなく、地域の大人も子どもの学びに関わる設計をしてみよう。
- ・ターゲットに「家族」も入れてみよう。

